

# 地方創生まちづくり 特別委員会会議録

令和元年6月18日(火)午後1時30分  
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

# 地方創生まちづくり特別委員会

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議長あいさつ

4 執行部あいさつ

5 協 議

①企業誘致について

②バイオマスについて

③議会報告会について

④視察研修報告について

6 閉 会

**出席議員（11名）**

3番	木村喜一君	6番	幡谷好文君
7番	谷仲和雄君	9番	岩本好夫君
10番	福島ヤヨヒ君	12番	小川賢治君
16番	大和田智弘君	17番	戸田見成君
18番	市村文男君（議長）	19番	荒川一秀君
20番	野村武勝君		

**欠席議員（なし）**

---

**付託案件説明のため主席した者**

産業経済部長	矢口正信君	農政課長	大山浩明君
商工観光課長	藤枝修二君		

---

**議会事務局職員出席者**

書記 富田 成

午後 1時30分 開会

**○副委員長（幡谷好文君）** 皆さんこんにちは。これより地方創生まちづくり特別委員会を開会いたします。

まず、岩本委員長よりご挨拶をいただきます。

**○委員長（岩本好夫君）** 改めましてこんにちは。地方創生まちづくり特別委員会ご参集いただきまして、まことにありがとうございます。

6月定例会中の委員会ということで、特別委員会なので審議事項はありませんが、地方創生ダイヤモンドシティ・プロジェクト、少子高齢化とか小美玉市の抱えるいろいろな問題があります。しっかりと協議していい小美玉市にしていければと思います。

きょうは、先日合同で視察研修行ってきたことを主に企業誘致についてなんですが、その辺を商工観光課に来ていただいて小美玉市の現状と、あとはわたしたちが研修した内容についても話させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

**○副委員長（幡谷好文君）** 続きまして、市村議長よりご挨拶いただきます。

**○議長（市村文男君）** それでは、改めまして皆さんこんにちは。6月定例会中ということで、長きに渡っての定例会いよいよ終盤になってきたわけですが、きょうは地方創生まちづくり特別委員会ということで、お忙しい中大変ご苦労さまでございます。

ただいま委員長からありましたようにこの前の研修のこと、あるいは議会報告会に関することということでございますので、よろしく願いしたいと思います。きょうは大変ご苦労さまでございます。

**○副委員長（幡谷好文君）** 続きまして、執行部を代表いたしまして、ご挨拶をお願いいたします。

**○産業経済部長（矢口正信君）** 皆さんご苦労さまです。産業経済部長の矢口でございます。地方創生まちづくり特別委員会ということで、この特別委員会は、地方創生まちづくりという本当に幅広い内容の検討をされている委員会だというふうに承知しております。産業経済部におきましても、ダイヤモンドシティ・プロジェクトの中に多くの事業が入っておりますので、それらを今後十分に検討のほうをさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

**○副委員長（幡谷好文君）** それでは、協議のほうに移りたいと思います。協議の進行は岩本委員長お願いします。

○委員長（岩本好夫君） それでは、協議事項に入ります。

まず、最初に執行部の皆様には反問権付与されていますので、必要の場合は委員長のほうにお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、自由討議必要な場合はこれも委員長に一言お願いしたいと思います。それでは1番項、企業誘致について執行部より説明をお願いいたします。

○商工観光課長（藤枝修二君） まず、初めに先日は、産業建設常任委員会との合同行政視察につきましては、大変お世話になりありがとうございました。

わたくしのほうから、小美玉市の企業誘致について説明をさせていただきたいと思います。着座にて失礼させていただきたいと思います。

資料のほうでございますが、レジュメ、それからパンフレットのほうを用意させていただきました。レジュメにつきましては、資料番号が書いていなくて大変失礼かとは思ったのですが、小美玉企業誘致についてといったA4版で2枚刷りのコピーしたものが1つと、それから小美玉市企業立地のご案内といったパンフレットになっているものが1つ、それからカラーコピーになってしまったんですが、茨城空港テクノパークが表紙になっておりますA3、2枚になるんですけどもこの3つの資料を用意させていただきました。

それでは、小美玉市の企業誘致についてのレジュメに従って説明をさせていただきたいと思います。

まず、市内企業の状況でございますが、法人数としまして法人の捉え方はいろいろあるんですけども、ここで数を出させていただいたものは、法人市民税の均等割り区分の中で企業数を出させていただいております。1号法人から9号法人までありまして、平成19年度当時は1,068法人でしたが、令和元年6月現在で1,204件、136法人の増となっております。このうち商工会関係に入っている加盟事業者数となりますと、1,124事業所さんです。それ以外が商工会さんには入っていない法人さんとなるところでございます。その中で、その下に企業連絡会と書いてございますが、合併当時前から玉里工業団地連絡協議会、そして美野里地区企業連絡会といった工業団地にそれぞれ工業団地と美野里地区については町内全域に渡りますけれども、それぞれ企業さんで組織する協議会がありまして、加盟社数としてはここに書かれてある玉里工業団地連絡協議会は15社、美野里地区企業連絡会さんについては24社、合わせて39社の中で市の連絡協議会をいま組織していただいているところです。ここには小川地区が抜けてしまっているのですが、合併当時こういった組織の設立に向けて市内部のほうでも各社調整に歩かせていただいたんですけども、ご賛同いただいた企業さんもあったんですけども、組織化

には至っておりません。それから、玉里工業団地につきましてはこれは工業団地で作っている連絡協議会ですので、外部からの加入はなかなか難しいところではあるんですが、美野里地区企業連絡会については加盟は難しくないと思ったのですが、小川地区の企業さんについてはこういった協議会には属されていないところが現状でございます。その下に中小企業者さんと呼ばれる範囲の定義を書かせていただいております。これは中小企業基本法で述べるところの定義でありまして、中小企業さんと呼ばれる一言といってもいろんな区分が出てくるんですけども、これは中小企業基本法を提示されているものになっております。大きいところでは、①製造業、建設業、運輸業、その他の業種、下の(②～④を除く)となっておりますが、3億円以下、300人以下、これが中小企業者さんと属に言われているところになっております。上の法人数の1号法人から9号法人の中で見ますと、ここの部分は1号から6号法人までにだいたい該当するところになっておりまして、小美玉市に属する中小企業者さんと呼ばれるものは、約1,146事業者さんがあると見込まれるところでありまして、小美玉市の企業者数等については簡単ですが以上が概要となります。

続きまして、企業誘致に関するこれまでの主な取り組みでございますが、これまで合併以後国や県においても各種企業の動向や意向調査は各種行っております。そのほか市独自で行った調査がこの書かせていただいているものです。平成19年度にはテクノパークへの誘致に関する調査を市独自に行っております。市内に本店、営業所を有する企業の中から220社を抽出して、回答を得たのは35社でありました。それから平成23年度には設備投資にかかる状況調査ということで、土地を求めたり建物を求めたりする希望がある企業者さんの調査を行っております。対象者としては、上場企業、茨城空港就航先隣接市町村、北関東自動車道沿線市町村、そこから3,300社を選定しまして回答を得られたのが841社といったこういったアンケート調査を実施しております。これに関連しましてその次にあります企業訪問等とありますが、最初の平成19年度に行った調査をもとに平成22年度までの間に複数回訪問した企業もあつたんですけども、東京の本社等に述べ60社に実際に足を運んで、これはテクノパークへの誘致を主にご説明にいったところですが、こういった企業訪問を行っております。それから昨年度ですが、平成30年度に市内の企業連絡協議会39社、プラス2社小川地区にある企業さんと、美野里地区にあるところなんですけれども、そこに実際に説明に行きまして、この小美玉市企業立地のご案内といったパンフレットをつくって市ではいまこういった助成制度があつてこういう優遇制度があるので是非活用してくださいといったご説明の訪問をしております。そのほかさきほど申しましたように、国や件で各種アンケート調査を行っておりまして、それらから得

られた回答で、小美玉市に企業誘致してくれそうな企業さんへ案内の送付や、直接の訪問などを行っておりまして、この実数についてはまとめられておりませんので数字は記載できておりませんが、随時こういった活動はしてきておるところです。そのほか市長におかれましては各種会合等で接見された各種企業の代表者さん等には、その都度小美玉の PR をしていただいて企業誘致に取り組んでいるところでございます。そのほか、各種 PR の作成などということで、取りあえず1つだけ一番新しいものをお持ちしましたが、こういったパンフレットなりテクノパークご案内なりのパンフレット等をつくってその都度周知してきているところでは、それから県の開発公社の工業団地になりますが、テクノパークにつきましては、わたしどものほうで報告をいただいているものではこれまで 23 社の引き合いがありまして、そのうちリサイクル系悪臭がともなったり、廃棄物処理であったりそういったところは 8 社ありまして、そこについては市のほうからお断りした経緯がございます。近隣に迷惑をかけているような施設だということで、そのほかについてはそのまま話がなくなってしまったり、引き続き県のほうでアプローチしているようなところもあると聞いております。企業誘致に関するこれまでの主な取り組みとしましては以上となります。

続きまして、小美玉市の優遇制度でございますが、先日訪問させていただいた小矢部市との比較をさせてもらおうと思ったところなんですけれども、優遇制度にはそれぞれ比較が難しいところがあったりしたもので一覧表にまとめることができなかつたんですけれども、小矢部市さんが取り組まれているものについては、茨城県の補助制度と合わせまして小美玉市ではだいたい網羅できているのではないかと担当としては思っているところです。特に小矢部市さんがやっていた本社機能移転などについては、茨城県のほうで小美玉市では行っているものを活用することとしておりまして、こちらでも要件がいろいろ出てきまして、補助の期間も今年度いっぱいであったり、33 年度までであったりとまちまちなのでなかなか比較が難しいんですけれども、本社機能移転については小矢部市さんでは 2 億 5,000 万円が上限となっておりますが、茨城県では通常 1 億、ただこれからの成長分野に係るものであれば 50 億まで補助しますよといったような補助制度もあつたり、ほぼ同じようなレベルの補助要件があります。小美玉市につきましては、税制の控除等になってまいります。市民を雇用した場合の奨励金につきましては、小美玉市の場合特に何名以上といったものがなかったり、何名以上といった要件も付けるものもあるんですけれども、その辺から言うと小美玉市のほうが自由度があるような補助要件の設定になっているところでは、最長で 3 年間受けられるとか、その辺を見ますと小矢部市さんでも精力的にやられていましたが、小美玉市も変わらないような内容でと認識してござい

す。その中でここに代表的なものを書かせてもらったものが5年間課税免除をします。それから、新規雇用者1名につき3年間10万円の奨励金を支給しますといったものがあります。それから工場を立地するにあたっては、緑地を20%設けなさいといった国の基準があるんですけども、小美玉市についてはそこを緩和しております、テクノパークについては5%といった規制や、通常は15%といったことで、そういった工場立地に係る規制緩和を行っているところでございます。

最後になりますが、これからの活動としましては、小美玉市で作成したパンフレットのほうの2ページ目にも書いてあるんですけども、小美玉市の企業誘致をワンストップで行いますという取り組みを始めております。これについては、すみません4ページ5ページになります。これにつきましては、各企業さんからのご相談お問い合わせなどについて担当所管への繋ぎ役となるこういった程度であるんですが、これからこれをさらに充実するために、ここに関係部局一覧とありますがそれぞれの制度等をまとめたり、あとは組織化まではいかないかもしれませんが、より効率的、効果的に働き方改革などもあることから組織をつくるばかりではなくてもっと効率的にこのワンストップが進むようなやり方を仕組みをこれから充実させていきたいと思っているところがまず1つワンストップに関するこれからの企業誘致の取り組みの1つであります。そのほかは、引き続き各種調査をもとにこちらからアプローチをして企業を選定して進めていきたいと思っているところです。簡単なんですけどわたしのほうからは企業誘致の説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

**○委員長（岩本好夫君）** ありがとうございます。企業連絡会というのは小川地区のほうが入っていないというのは何か特別な理由はあるの。

**○商工観光課長（藤枝修二君）** 特別はないと思うんですけども、当時の聞き取りを行ったときのものを見ますと、必要がないという回答をいただいたところもありましたし、前向きに検討したいといったところもありましたので、ただ組織化であったりというところについていないところなんですけども。

**○委員長（岩本好夫君）** それと以外に優遇制度が小美玉はちゃんとしているのがびっくりしたんだけど、わからなくて大変失礼しました。これはテクノパークに企業を持ってきた場合ではないの。小美玉市であれば要件を満たせば使えるということなの。

**○商工観光課長（藤枝修二君）** はいそうです。市内どちらでもということでございます。さきほど言った緑地の緩和については、テクノパークだけは5%という数字があります。

**○委員長（岩本好夫君）** 執行部の説明は終わりました。ご意見等ある方は挙手をもってお



願いたします。

**○20番（野村武勝君）** 随分話を聞いているとどうしてもテクノパークに対して工場を誘致しようという考えではわたしは100%駄目だと思うね。やはりいまから道路ができるところをそういうところを狙わないとテクノパークやったんではいつまでたってもできない。それともう1つ戸田君が前に言ったようでしたけれども、今度組織というか藤枝君が先頭でやるわけだな。そのときに苦勞が、なんで肉屋のジャパンミートに逃げられて、そしてまた納豆屋さんに逃げられて、もう少し執行部暇見たらば企業連絡協議会というものがあるんだから、どんどん歩いてその結果を報告してくれるような姿をやらないと工場なんかを誘致しようとしたって工場は誘致できないとわたしはそう思っている話聞いているんだけど、テクノパークテクノパークって県のものを一生懸命売ろうと思っても話は繋がらないと思うの。ここで売るという土地はないから、とにかく排水、整地そういうものがもろもろきちっとできていなければ、いまからの工場は来ないです。見ると一生懸命こっちでやろうと思ってもテクノパーク相手では、友部の工業団地、茨城町の工業団地に行っちゃいますよ。そういう点をなんでもつたいないなど。いま思うとタカノフーズなんか今度新しくできる空港の路線にあるからそれこそ北関東から全部のあれになると思うんだな宣伝に。だから本来ならばもしトップだったらば、タカノフーズが買った茨城だか友部だか知らないけど、あれ買っちゃって別なところどういう条件でもつくりますから入ってくれぐらいの根性がなければ工場誘致なんかは無理だと思うな俺はテクノパークにしては。テクノパークで納豆屋あそこは嫌だって言ったと思うよ。それとまた職員が企業連絡協議会と工業団地協議会とかってあるけども、クレハもどこかへ行ったっていうんだよな。クレハ化学も子会社か何かどっか行ったといたな。そういうものなんだかこう見ていると後手後手にまわっていると。そしてこの間研修に行った工業団地にももっと見てもやっぱりトップセールスだよな。もう市長自ら企業に行っておんたらやってくれというような気持ち。その前に職員が1日3件なら3件歩いて来ようよというような方法も大事なのかなと思っているんだけど、職員がトップセールスしてもらいたいと思うんだな。テクノパークを小美玉は考え直さなくてはならないよ。ここにいくら持ってくるっていったって、婿様が足が短くて男っぷりが悪いところへはなかなか来ないよな嫁様に。そういう点で例えばの話だけど、よくもんで検討しなければならぬと思うんだ。いちようそういうふうに考えたものですから。

**○委員長（岩本好夫君）** 野村委員の考え方に対して執行部のほうで何かありましたら。

**○産業経済部長（矢口正信君）** 野村議員のおっしゃる通りの部分が大きいかなと思っております。この資料にもございましたが、平成30年度に41社の企業を訪問してそれぞれの課題

とか今後の方針なんかを確認をさせていただいております。そういった活動を地道にやってみて、市を信頼していただくというか、お互いに信頼関係をつくっていった情報があればいつでもこちらに相談していただけるような体制をつくるのもまず重要なのかなということで、去年から始まっておりますので、これは継続的にやっていってしまおっしゃっているようにあんまり外に出ていかないで市内で拡大していけるようなことを考えていただくようなことも働きかけていきたいというふうに考えております。それとテクノパーク運営につきましては、今後ともここは張り付くような推進を県と連携して一緒にやってまいりたいと考えておりますので、なかなか厳しいとは思っていますが、ご理解いただければと思っております。答えになっていなくて申し訳ありませんが以上でございます。

**○委員長（岩本好夫君）** 野村委員いいですか。

**○20番（野村武勝君）** いいけどもテクノパークばかりだけでなく、やっぱりいろいろな可能性のある場所を探したらどうなんだろうと思うな。ただ、いま、わたしもそういう企業に入っているから言うのではなく、いままで見た感じでは開発公社というものをもう少し活用したほうがいいんじゃないかと。何故かというといま立地が一番安い、そして金利も安いということで、いままで失敗した例というものは、あまりに土地の値上がりしたときに開発公社をつくって次から次にやろうとしたわけなんだけど、ある時期からだと土地がどんどん下がってデフレになってきちゃったの。そういう中を見ればいまは俺は開発公社をつくってまちづくりの工業団地というか、工業を設定する場所を調べてやったらそういう土地の開拓をすると。それとアンケートをとって売らないというところはやっても駄目だけど、売ってもいいというところがあるかどうかそれをまずみんなで検討したらどうなのかなとわたしはそう思っているんだけど、やはり何かひとつチャンスというのをある。いま、金利が安い、そして土地が安い、これ以上下がるようなことがないとわたしは思っているんだけど、そういう中でテクノパークが駄目だからという工場誘致できないの。それではせっかく見に来た人がいるわけだろうからそれを要りませんといわれたときにそのまま逃がしちゃうの。そうじゃなくどういう条件でもやりますからひとつどういう条件のところを欲しいのかどうか突っ込むような市で自身をもって突っ込むような相手の話を聞くのも大事だと思う。何社か来ましたがテクノパーク行きません。それで終わりでは矢口部長しっかりして藤枝君とやったほうがいいと思うけどな。それはお願いだな。

**○委員長（岩本好夫君）** 要望でいいですか。

**○20番（野村武勝君）** はい。

**○委員長（岩本好夫君）** いま、野村委員が言ったようにテクノパークだけではなくて、例えば空港までのアクセス道路、これも沿線ね。それとこれも考え方なんだけど、学校跡地利用についても企業誘致という視野も入れてもいいと思うんだよね。ここ当面は学校開放するような内容になっているような気がするんだけど、もっともっと有効に利用できる広く企業、工場ばかりじゃなくいろいろな意味での企業ってあると思うし、そういったことも視野に入れて。それと、小矢部市のほうでは独立行政法人中小企業整備機構というのかな、これを窓口にしたのを実績上げた理由の1つであると思うんだよね。こういったところを小美玉市でもここは融資なんかも扱っているのかなこれ。だからこういうところを窓口にするのも何かホームページとかそういったもので大々的にやってもらっていて、ほぼそっちの問い合わせのほうが多いんですよと話をしていたんですね。そういったところも使えるものは使ってやっていけばいいのかなと思うんだけど、企業誘致できれば当然雇用もうまれるから、そうすると小矢部市のほうでは定住人口はそれほど増えていないという部分なんだけど、約7,000人減っているということかな。もしアウトレットとか企業誘致が成功していなければ、もっと人口減っていたんじゃないかと思うんだよね近隣見るとね。人口減少に歯止めはかかっていないとは言うけど、現実的にそれがなかったらもっと進んでいたのかなとも思うし、それと小美玉市もしっかりここ何年かごとに人口減少のデータこのぐらい減っていくという計算をしていると思うのだけど、それよりもはるかに早いよねいま減っているよね人口はね。だからそういったことも含めてよく対応していったほうが良いと思うんだけど。

ほか、委員さんのほうで何かご意見ありましたらお願いします。

**○3番（木村喜一君）** ただいま野村委員さんのほうから具体的なお話ありましたがわたくしも全く同感なんですけども、そもそもいまの小美玉市の脅威というのはお隣の笠間市さんだと思うんですね現実的に10町歩も子会社が行っちゃっているわけなんで、笠間市さんのとっている企業誘致というのは、平成20年度からワンストップサービスというのが始まっているんですよ。そこへきていま小美玉市がやっている、これ批判するわけじゃないんですけど、緑地の緩和だとか固定資産税の減免だとか従業員の補助なんていうのはそんなの当たり前で、どこの自治体もやっていないところがないくらいじゃないですかもう遥か昔から。うちはつい最近ですけども、そういう中で笠間市はマックスが5億円と決まっていますけど、どんだん県のほうとはまた別に独自に予算組んでやっているじゃないですか。まして予算措置を講じるものがなくて小美玉市はすぐに5億とはいかないかもしれないですけど、それが1千万2千万3千万でもお隣が現実的にそうやって1億5億とばんばん出しているわけなんで、実際に

行かれちゃっているわけですからね笠間市にもかすみがうらにも。これでいまのまませっかくつくってもらったんだから始めの第一歩だとは思いますが、この延長線上で考えていんでは熾烈な今後の時代競争とか企業間誘致競争は絶対に無理だと思いますよね。皆さんもきっと心の中では同じだと思うのですが、そういう意味で工業団地市で造成するのもなかなか大変だというのはわかっているんで、ただね農振的なことなんかも随分わたくし言わせてもらいましたけど、除外してもらうのが一番お金がかからなくて手っ取り早くていい平らなところもいっぱいありますし、このテクノパーク地上げしたときよりか単価1千万とか高いじゃないですか。いまはもう土地の値段というのはメガソーラーの太陽光業者が単辺り100万3,000坪ぐらいでばんばん上げられちゃっているんで、何もいま平らな土地というのは全く野村委員さんのおっしゃる通り全く心配ないと思うんですよね。前にこれは3万5,000円で買ったやつを造成して値下げして売っているような状態だから苦労しているんですけども、いま3,000円ぐらいでか買ってあげば何にも心配ないとわたしは思うんですけども、それにふさわしい土地が小美玉市には平らなところがいっぱいありますので、線で生かすも殺すも政策次第だと思うんですけどもね。ちょっと言葉整いませんけど。農振のほうも一番大事なこれから計画を上げるのに最終的な一番大事な時期なので、こういうことも連携をよくしてもらって進めてもらえればなと思いますけども。以上です。すみません。

**○委員長（岩本好夫君）** いまの木村委員のご意見に対して何か執行部でありましたら。

**○産業経済部長（矢口正信君）** おっしゃる通りで、いま、現在農振の用地を見直しをしておりますので、それも含めまして土地利用計画については、様々な角度から検討して定めてまいりたいというふうに考えております。それと、周辺市町村でもいろいろな事業が取り組まれていますので、その辺も参考にさせていただきながら小美玉市らしい魅力ある制度というものも検討していく必要があるというふうにいま痛感しておりますので、今後検討のほうを進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

**○委員長（岩本好夫君）** 木村委員いいかな。

**○3番（木村喜一君）** はい。

**○委員長（岩本好夫君）** ほか。

**○20番（野村武勝君）** 何回も心配でしょうがないんだけど、だからね場所を市役所は金かからないんだからこの辺を団地ではなく工場を誘致するというようなのをみんなで検討して、その地主さんにアンケートをとる。ここへ工場を誘致賛成ですか反対ですかと金かからないからそのほうが。そうすればいつも言う通り、小岩戸は、あれは農村導入何とかという地区に

して、あそこへ普通は建たないんだよ工場は。だけどあそこにあれだけの工場が建つという。だから金かからなくてもやはり枠を組んでおくと案外スムーズにいくんだよな。そういうような方式でアンケート方式をやって、それでみんな一致団結でみんなあそこなら工場がいいだろうというような場所をみんな意見を持ってもらって、それでそこならいいというならば工場を建てることに賛成ですか反対ですか協力してもらえますか、それが決まってからすればあなたらが工場を誘致するときに見せる場所ができるんだよ。ここは排水もみんなやってあげますよやりましょうと。その中で単価はいくらですよと決めれば俺はそんなに金がかからないでできるんじゃないのかなと。ただやる気の問題だよ。それが残念なのはさっき言ったようにクレハだとかジャパンミートとか納豆屋さんとか何でいままで知りませんでしたでは通らないよな。前から戸田君も言い言いしてんだよな戸田さん。だって 30 万ぐらいで工場誘致の事業できる。執行部で 30 万円だっけかな。これで工場誘致しようといったって考えようよ。これからこの委員会でもいいから考え方を換えようじゃないかい。テクノパークとじゃこういうのもありますというものを見せなければ、みんな来ていままで何 10 社も来たんでしょよテクノパーク。ほしいと思って来ているんだろうよ。それがみんな逃げちゃうの。そんなのではやっぱり場所はさっきも言ったように委員長が例えば吉影の小学校だってあれも排水がきちっとできているからもしここに電気の会社もってくるとか、みんなで学校跡地売っちゃったとかそんなことなく、旧美野里は金陽社に中学校売ったりな。そういうふうにして進めてきた時代があるからどこを見せていいかわからない。テクノパークだけ見せたってこれ売れないよ。誰が見ても売れない。だから産業廃棄物の会社なんていうぐらいしか来ないんじゃないの。

**○17番（戸田見成君）** 30 万円というのは、草刈料なんですよテクノパークの。

**○20番（野村武勝君）** だけど勿体なかったな納豆屋さんに行かれたことはな。

**○16番（大和田智弘君）** ああいう情報はとれなかったのかな。

**○20番（野村武勝君）** だからそういう点が二度とないように。企業連絡協議会あと小川であんなに 2 社ともほかへ行くそれは綺麗に整地してあって開発行為がとれて、排水がみんなできているとこしかいかないの。いま普通の土地を買って木を伐採してそれで排水も自分でやって、そういうような買い方をする企業はないね。だから思い切って 2 箇所なら 2 箇所そういうふうにくくって地主さんとよく相談して、それでアンケートでやったらいいんじゃないのかなと。金払ったり金がどうのこうのと言われるのが嫌ならば。例えば俺この間も伊能前町長に会ったの。伊能さん持っているんだという話なんだ。今度空港道路ができていつもこれってやっている。北中のちょっとさっき行った反対側の山が 10 町歩か 20 町歩あるのかな。伊能さん

あそこどうなんだよって言ったら、うん野村さんわたしも持っているけど2反部3反部の細長い区割りであれだよ売れって言えば売るよいくらでも。5反部とか1町歩がまとまっているという人が売るのはあれなんだよ。ただ、細長く2反部とか1反部とかの区割りならいま山もって山掃除する人いないから。だからそういうものをターゲットにしたらどうかなということは市長と伊能町長に言っただけ。伊能さん協力してやったらがっぺよと言ったら、いいですよというような話は受けたけど。あそこなら素晴らしい場所になるのかとこう思います。わたしは思って話をしておきました。

**○17番（戸田見成君）** アンケート調査なんかやったら来てくださって言ったって来ないんだから。自分らで工業団地をつくるような場所をまず調査したらいかっぺよ。ここがいいとかどこがいいとか10箇所20箇所探して、それで話にもっていきながら市としても手伝いますからとかそういうやり方でしょうよ。いまのようなやり方では絶対できないよ。

**○委員長（岩本好夫君）** いま、委員さんから出たように、確かにさっき木村委員が言ったように、小美玉市は少し出遅れているのかなという気もするし、人口減少にしてもかなり進んではいるしね。大事なものは人口減少の内容でしょこれ。生産年齢人口が減ってきちゃうと小美玉市将来考えたときに。高齢化率も上がってくるわけだし、そしたら企業誘致というのは雇用をうむわけだし、定住も期待できる部分もあつたりとか、まず、手をつけなければならないところなのかなとは思うんだけど、少し委員さんの意見良くまとめてもらって一歩踏み込んでいまよりも企業誘致を考えてもらわないといけない時期なのかなと思います。きょう委員さんの意見聞いていてしみじみ思ったのは、わたしら特別委員会なんで議案審査はないんだよね。でも、議案審査がない委員会だからこそういった協議ができたりとか、所管を超えた審査ができる、これ委員さんの意見が大事だと思うので、しっかりと書き留めてしっかりと前向きに結果できるように頑張っていたきたいと思います。

ほか、委員さんから何かご意見ありましたら。

**○16番（大和田智弘君）** 1つだけ企業連絡協議会ね。今回小川地区にあった企業2社がほかに移転したということなので、小川地区が組織できなかったというけど、やはりこももう1回小川にまだ残っている企業さんに働きかけて是非企業連絡協議会を立ち上げてもらって、市の連絡協議会に入ってもらってそういうこともひとつの。ほかに移転しない方法の食い止めるためにも必要かなと思うんですけども。

**○委員長（岩本好夫君）** 執行部でいまの意見に対して。

**○商工観光課長（藤枝修二君）** その取り組みにしてもいま大和田議員さんが言われたよう

に、取り組んでいきたいと思えます。さきほどちょっと抜けてしまったんですけども、昨年度行った市内の企業訪問においてはいろんな意見をいただいております。規模拡張したいんだって考えている企業さんもいまおまして、その辺も聞いているので、そこについてはいま誘致をしているところでございます。あと、新規採用についても応募してもなかなか募集がないんだとかといったような、そういった意見なんかもあったんですけども、昨年度の各種企業さんをまわらせていただいた結果、拡張を考えているところもいくつかあるので、そこは引き続きこちらからお声をかけていきたいと思っていますし、小川地区の企業さんについてもこれから広げていきたいと思えます。以上です。

**○委員長（岩本好夫君）** さっき俺冒頭に言ったように、小川地区が入れば何か特別な理由があるんですかと聞いたと思うんだけど、それないんだったらば、おそらく企業連絡協議会に対しての入る魅力がないというか、その価値がないと思っているんじゃないかと思うんだけど、その辺も含めて熱心に進めていただいて、そうすれば大和田委員が言ったように、ほかに移るなんていうことも避けられるのかなとも思うし、よろしく願います。ほか。

**○19番（荒川一秀君）** いま、お話聞きました。テクノパークは県でつくったんだよね。それで管理は小美玉市がやっているの。まだあれは県なの。その辺が明確にわからないから。だからテクノパークは県のほうでやっているんだから県のほうに任せておけばいいでしょ。それに対して金かけてどうのこうのじゃなくてあれするかも。ただ土地はあるかもしれないけどいまの状況ではひとつの見切りをつけるべきだし、違う発想のほうがいいのかなと思っている。それと、工場誘致とか企業誘致とかどのくらいの規模のを構想的に考えるのか、小さな企業にも優良企業のところはあるわけだしそういうふうなこともきちんとね。何町部要なのかそういうのも調べてもらうといいんだよね。そうすれば別に今度はアクセス道路がインターチェンジがあるスマートからもね。そこにガバットでかくなくてもそういう場所でね立地状況のいい。前は合併する前には羽鳥地区ですかパチンコ屋の355号沿いに工業適地とかってなっていたんだよね。指定してあったんだよね。そういうふうな方法でやる方向でやっていけば違うのかと。前にやったやつが各合併前にはあったはずなんだからそれも見直してもいいのかなと。それと藤枝君にしても矢口君にしても大山君にしても申し訳ないんだよ。産業経済部署でもっての関係。これは特定事業プロジェクトとかいうチームとかなんかを執行部でつくってもらって専門的に物事を考えてやっていくような部署にしてもらえないかなというのがわたしは思うんだよね。そうしないと彼らだけでは厳しすぎるし、窓口では大変だと思うんだよ仕事両方抱えて。ですからそういうものを執行部で検討。これは市長の話だけでも。それと同時に情報を企業連

絡協議会とかで時々やっているみたいだけど、不動産屋さんに行けばいいんだよここにいる2人。もっと小美玉市にいっぱいいるわけだから。そういう人らとの協議会をつくって情報を入れてもらうんですよ。そういうことも大事だよ。公務員が情報をもろうのは無理だから難しいんだから。やっぱりそういう業者の人にあれして。農業なら農家関係でもって農業委員会やら農業公社やらいろんな団体と全部協議会つくるようなことわたし毎回言っているけども、そういうことも大事なんだよね。情報を収集する手段というかそういうのも必要かなと。別に答弁するしないではなくて、わたしの考えだから。その辺のところ答えられれば答えていいから。プロジェクトつくるなんて答えられないんだから。

**○委員長（岩本好夫君）** いまの荒川委員に対して。

**○商工観光課長（藤枝修二君）** テクノパークにつきましては、県の管理でございます。一部は市の受け持ちになっているところがありますが、そこは市で管理している一部がありますけど県の管理でございます。

**○産業経済部長（矢口正信君）** それから、庁内での対応の窓口ということで貴重なご意見をいただきました。市のほうではさきほども説明しましたが、ワンストップ窓口ということで一括して協議ができる窓口をつくったところなんですけど、今後効率的な対応ができる必要があるかと思っておりますので、その辺も含めまして貴重なご意見として伺いまして、検討させていただきたいということで、きょうはこの程度で失礼します。

**○委員長（岩本好夫君）** ほか。

**○副委員長（幡谷好文君）** わたしのほうからすみません。荒川委員さんのご意見と重なってくるんですけども、先日小矢部市に行ったんですね。三井アウトレットモールを誘致の経緯というのを協議の中で聞かせてもらったんですけども、皆さん覚えていると思いますけども、そのときに市長が当時の市長が先頭に立ってあそこに商業パークをもってくるんだという意気込みで誘致をしたのですかという問いに対して、いや実はスペシャリストが1名いてその方に誘致、商業パークに誘致にいたってはその方が一生懸命奔走したという話を伺いました。これは以前に別な委員会で高松市に伺ったときもやはり1名スペシャリストが、これは退職された方が企業関係の窓口になって誘致したと。影にはそういったスペシャリストが聞くといらっしゃるんですね。荒川委員さんがおっしゃる通り、なかなか庁内の担当者さん、いま、なかなか厳しい部分があるのかなというふうに感じております。せっかく研修でも行った小矢部市さんもいい研修ができたと思いますので、そういったところも今後活かしていければなと思いますので要望します。



○委員長（岩本好夫君） 要望でいいの。

○副委員長（幡谷好文君） はい。

○委員長（岩本好夫君） ほか。

○17番（戸田見成君） もうだいたい出尽くしているんだよね。いままでの議員さんたちの一般質問や何かみんな読んで、読み直してみなよ。いろいろなこと言っているから。あんたら知恵がこの書類にこだわってるから。こういう書類だけ。自分たちの規則だとかそんなことばかり考えているから頭が絶対外へ向かわないんだよ。人のさっきもどうのこうのと言っていたけど人の話しを聞く。情勢を見極める。いろいろなものをまずは取り入れることを考えないと駄目だよ。さっき野村さんも言っていたけどやる気だよと言っていたよね。いろいろなこと考えたって駄目なんだよ。やろうという気持ちがないと。市長とちょっとこの間も話たかもわからないけど、部長にこうやってみんな言っているんだからやるほかあんめと言ったら、やんなかったっていうんだよその部長が。それをやる気を市長はやっぺと言っているんだからみんながやる気になればいいんだよ。それにはやっぱりいまのようなこのこういう文面見ていては駄目なんだよ。1千万円あげます何あげます優遇しますなんてそんな問題じゃないんだよ。やっぱりわたしは産業経済だけではできないと思っているけど、小美玉市で何が必要なんだよ。産業構造をどう考えなおしてではこういう会社を呼んだらいいんじゃないかとかそういう方向性をきちんとして、場所を選定して、そしていよいよやるか。それはほかのいろいろなところで成功している町があるわけだよ。そういうところもこうやって何遍か見ているんだから。その地域の意欲だよ。どんなふうにもっていったって何が中心になってこんなに動いているんだっていうそういうものをくみ取らなければ駄目だよ。この間だってわかると思うんだけど、聞いただけでもこれはやっぱり熱気だやる気だ。そういうものが基本になっている。いろいろ考えたって駄目なんだよやる気がなければ。やる気のあとにいろいろな問題がもちろん出てくる。それをいかに解決するかというのがあんたらの仕事なんだよ。これはいくら言っていたってやらない。もう10年以上これみんな言っているんだぞ。もうあなた方がこうやって議会でやろうって言い出しているんだから。あんた方がやる気にならないとできない。これはもちろん条例改正もあるでしょうよ。総務課も必要だし公室長だって必要だし、企画財政部そういうものももちろん頭脳を集めてやらなければならないこと。本来はあなた方じゃないんだよ。企業部という別なものをつくって本気にならないと本当はできないと思うんだよ。これはしゃあないこういう状況だから。だから自分たちがまずはやる気になることそこから始まったら。なかなかみんな動かないんだから市長動かしてくれって。あんた方が意欲をもって市長を説得し

たらいいんだよ。市長だってただ見ているわけではないんだから。あんたらがやる気になれば必ず手出してくれるから。そこのところもう少し頑張る気持ちがなければできないよこれは。こんなこと何遍しゃべっていったってあなた方がやる気にならない限りはこれは絶対できないから。我々一生懸命やれやって言ったって執行部がやりださなければできないんだよこれは。それには頭をもっといろいろなことに開発的な頭を考えないと。ひとつ頼みますよ。みんなやっぺって言っているんだもん。以上すみません余計なこと。

**○委員長（岩本好夫君）** 要望でいですか。ほか委員さん大丈夫ですか意見のほう。

企業誘致はきのうきょう始まったことではないので、みなさん3人を攻めているわけでもないんで、ただきょうの委員さんからいっぱい意見出ました。きょうあす中にどうしろということではないので、9月の定例の特別委員会のとときにでもいまの委員さんのいっぱい意見あがったものを良く調査していただいて、少なくとも形にならなくても報告っていう形でやっていただければと思います。いいですか皆さんそれで。

**○20番（野村武勝君）** 最後にすみません。事務局でねどうか企業連絡協議会を1日3件でもいいから全部網羅してあとでどういう要望が。このぐらいならあるというものを議会のみんなに話してくれないかい。歩いてくれよ。二度と失敗しないでくれよ。おかめ納豆とジャパンミートみたいなことがないように、2社そしてその前にもクレラップがかすみがうらのほうに行ってしまったという話を聞くんで、もうそれ以上これからは食い止めてくれよ。どういう意見を聞いてやってくれよみんな企業まわりして。手当てしてもいいから部長な。それであとで報告してもらえればいいなと思うな。やっぱり企業まわりして仲良くならないと企業のトップとそういうふうに思いますね。お願いします。

**○委員長（岩本好夫君）** 要望でいいですか。いま、野村委員さんから出たことも含めて9月定例の特別委員会のとときにはご報告のほうをよろしくお願いします。

**○20番（野村武勝君）** 誠意をもって歩かなければ駄目だよ。

**○委員長（岩本好夫君）** それでは、ここで45分まで休憩します。よろしくお願いします。

午後 2時30分 休憩

午後 2時40分 再開

**○委員長（岩本好夫君）** それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

2. バイオマスについて、これは幡谷副委員長のほうから説明をお願いいたします。

○副委員長（幡谷好文君） わたしのほうからご説明申し上げます。お手元の資料を確認していただきたいんですが3部ございます。A4の2枚綴りになっているものが1部、小美玉プロジェクト概要1と書いてあるやつです。それと、関連図になっているものA4の1枚用紙になっているものが1枚です。それと、農林水産業みらいプロジェクトと書いてある小冊子になっているこれが1部合計3部ありますかね。そちらの資料に添ってご説明申し上げます。

まず、こちらのバイオマスについてということなんですけども、せんだって執行部のほうから市のバイオマスに対しての方針は受けてはおりますが、3年前にこの委員会を通してバイオマス発電、バイオマス関連について地方創生の一環としてこの委員会で取り上げさせていただいて、その後問題を揉むということで皆様からご承認をいただいているものでございますが、その中であっていま現在小美玉市内の民間の業者の農業法人1社、酪農法人1社がこのバイオマスについて本気で取り組みをし、これから助成金の申請をして事業に取り込もうとしている事例がございますので、この委員会を通して皆様にご報告申し上げたいと思います。バイオマスなんでメタンガス発生、資源は酪農から出る牛糞、それと玉里地区レンコン業者から出る野菜残渣、それと、小美玉市内にある養鶏所から出る鶏糞などを混ぜ込んだ資源を利用してメタンガスを発生させて、熱と電力をつくりあげるという構造になっております。実際に具体的にお話しますと、柴高の朝倉農場さん、それと玉里地区では山口ファームさん、養鶏のほうでは養鶏組合の組合長さんにもご協力いただいて具体的な話が出ているのは、イセファーム森屋農場さんこの3社で共同でこの事業に取り組むんですが、これが農林水産業みらいプロジェクトという小冊子がございます。これの助成を受けるため一般社団法人農林水産業みらい基金というものなんですけど、これに7月31日付け来月の末までに申請を事業者が行ってこれに認められますと最大で90%の助成が受けられるというものであります。内容としては、朝倉さんのほうで今事業計画が1億2,000万円、山口ファームさんが6,000万円合計で1億8,000万円なんですけど、それを個別に申請を行うわけですが、一体となった事業として小美玉プロジェクトという命名をもとにこれから申請を行うわけですが、90%も助成が出るというわけですね。約2億近くかかるわけですが、その事業費のほとんどが助成されるということでありまして。その中でこの事業者さんからもお話をわたし伺っているのですが、小美玉市、それとそののちは茨城県から推薦事業に対しての推薦をいただければなおこの助成基金に対して通りやすいという申し出もございました。機会があって午前中山口部長と大山課長には資料を渡して概要説明はさせていただきましたが、是非この内容を良く精査して事業者さんからもお話をこれから伺っていただいて推薦に至ればなと考えております。これはもう事業としてバイオマス発電施設をつくるこ

とによってどういったことがもたらされるかと言いますと、まず、レンコンを生産している山口ファームさんに至っては、バイオマス発電による熱を利用してハウス栽培を行うわけなんです。冬場の水温管理20度から25度の水温を調整すると、それとLED電気を使って生産性の向上をこれは試験的なものになるんですが、生産性をあげるためのLED電気を利用した生産性向上。もう1つは消化液というのがバイオマス発電所からは必ず出ます。その消化液を利用してレンコンの生産を向上させるそういう目的のもとこの発電施設をつくろうと考えております。朝倉農場さんに至っては、夏はいま気温が上昇しております。人間もまいている状況でありまして、これは畜産、牛もまいるわけですね。そんな中でこの発電した電気を利用して冷房化、それとミスト、冷たい水を浴びせませすね。そういったものに繋げていくということをおっしゃってました。朝倉さんに至っては電気代が年間100万円以上かかるというお話になります。そういった中でこういった発電施設を利用して未来の小美玉市にあった未来の取り組み、未来の農畜産業の取り組みを実験的に率先して行っていきたいという強い意思表示も確認しております。なので、執行部におかれましては是非こちらの事業に対してよく精査をしていただいて、推薦に至っていただければ小美玉市が推薦をしていただければ茨城県も推薦に至るというふうにわたしは考えております。実際の推薦はなんでかんで必要ではないのですが、この一般社団法人農林水産業みらい基金に対して自治体も推薦しているんだというバックアップですね。そういった体制があればこれは最大90%、必ず90%ではなくて最大90%の助成が受けられるということですので、これが40%になるのか、小美玉市の推薦があることによって90%受けられるのかこれはそのときになってみないとわからないところではありますが、事業としてはとても素晴らしいことだと思いますので、是非この委員会でもこのプロジェクトに対して見守っていききたいと考えておりますので、執行部におかれましては、精査していただければと考えております。ざっと説明をしてしまいましたが、この内容についてのちほど委員の皆さんも目を通していただければなと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。

○**委員長（岩本好夫君）**　いま、幡谷副委員長の説明が終わりました。執行部のほうで何かご意見ありましたら。

○**農政課長（大山浩明君）**　いま、ご説明いただきましたこの内容なんですけれども、実はわたしどものほうではきょうの午前中この話を聞かせていただきまして、この資料につきましてもきょう拝見させてもらったところなんです。バイオマスの利活用については家畜業の皆さんにとってはいろんな課題をもっているところでもありますので、うまくリサイクルと言いますかそういう還元ができればいいものだなというふうに感じているところです。きょうの話の

中では概要はこれで説明いただいたんですけども、実際にあげる計画書そのものがまだ作成途中ということで見せていただけませんでしたので、今後計画書とそれから実際に事業を行う朝倉さんと山口さんのお話はまだ全然聞いておりませんので、そちらのほうのお話を伺いながら検討していきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（岩本好夫君） まだ計画の内容をよくわからないのであれだと思っただけど、是非前向きに精査してください。よろしくをお願いします。

ほか。

○20番（野村武勝君） 直接県のほうに対して申請を出しているの。

○副委員長（幡谷好文君） これは、県ではなくて一般社団法人農林水産業みらい基金という社団法人がございまして、そちらに申請を出すということなんですね。これは県の補助助成ではないんです。なのでこちらの助成が受けられるかどうか。

○20番（野村武勝君） これをやっているところはあるの。我々は北海道は行ったけども、いいことだなとは思ってはいるんだけど、これは茨城県小美玉市が先駆者なの。

○副委員長（幡谷好文君） この基金を受けて実際に事業を受けているところが国内に数箇所ございます。

○20番（野村武勝君） ああそう。

○副委員長（幡谷好文君） こちらのバイオマスに対しては、もしかしたらこれ小美玉市が最初になるかなと思います。

○20番（野村武勝君） いいことはいいことだから。空港のほうでは臭いがするというから、山口部長が反対するほかあんめこれみんなで。

○副委員長（幡谷好文君） もう1点なんですけども、先日一般質問の中で大和田議員さんが線虫についてのお話があったと思うのですが、これをハウス化して管理をしやすいことによってもその線虫対策にもなるのではないかという期待もされておるところでもございます。

○20番（野村武勝君） いいことはいいよ。

○16番（大和田智弘君） いくつくらいもらえるのかな。それは選定されて全国でも何箇所かは申請があって実際許可は何社くらいなの。それはわからない。

○副委員長（幡谷好文君） この基金の助成の度合いですかね。それについては、こちらの小冊子のほうの1ページめくっていただいて、はじめにというところの欄がございます。これの5行目6行目あたりに、農林中央金庫より、200億円の基金拠出を受けて2014年に設立され、農林水産業と食と地域のくらしを支える「農林水産業みらいプロジェクト」を展開しております。

すということですので、200億円の基金財源があるということですので、まだそんなに事例はあがっておりませんので、まだまだ潤沢に資金はあるのかなど。ただ事業計画がしっかりしていないともちろん選ばれることはありませんので、しっかりした事業計画をつくっていくことが重要かなど。

○**委員長（岩本好夫君）** 委員さんのほうから特にご質問、ご意見なければいいですか。

この件も9月に幡谷副委員長のほうから報告があると思います。

では、3番項に移ります。議会報告会について皆さんのお手元に資料があると思うんですけど、地方創生まちづくり特別委員会議会報告会報告内（案）として議題に入ります。

目を通していただきたいと思います。

1ページめくると政策提言の概要と市の回答というのがありますので、これは資料として議会報告会に添付したいと思います。それをめくっていくと口述書がありますので、それもお目通しをいただきたいと思います。富田君この口述書そのものでは時間オーバーしないの。5分くらいで収まる。

○**書記（富田 成君）** 約5分の口述になっています。

○**委員長（岩本好夫君）** はい。特に問題なければこういう形で、あとは口述書のほうはわたしと副委員長のほうでさらに精査する部分があれば精査して、皆さんに口述しやすいようにしていきたいと思います。任せてもらってもいいかなこれも。

「異議なし」の声あり

○**委員長（岩本好夫君）** 委員長・副委員長のほうであとは精査する部分があれば精査します。

続いて、4番項、視察研修報告について議題といたします。

この間の研修報告書ですね。これも皆さんのお手元にあると思うんですけど、1ページの目的から始まって議員さんからあがっているものは載せてありますので。いいですか。まだあげていない委員さんたちはあげていただければよろしくをお願いします。

これは各々が視察したのを見て所感であったりとか、小矢部市の視察に対する対応などの部分なのでこれも委員長・副委員長に任せていただければと思います。よろしいですか。

「異議なし」の声あり

○**委員長（岩本好夫君）** では、協議事項は以上なんですが、委員の皆様の方からこの場で何かその他の部分で話し合っておきたいものがあればお伺いします。大丈夫ですか。

ないようでしたら以上で協議事項を閉めたいと思います。

○**副委員長（幡谷好文君）** 以上をもちまして、地方創生まちづくり特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後 3時00分 閉会